

# 令和5年度 県政アンケート調査結果の概要について

令和5年12月

みらい企画創造部企画調整課

【調査目的】 県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の施策の企画立案及び執行上の基礎資料とする。

【調査項目】	(1)「山形での生活」について	(問1～7)
	(2)「SDGs(持続可能な開発目標)」について	(問8～9)
	(3)「結婚・子育て・家庭」について	(問10～18)
	(4)「性の多様性」について	(問19～24)
	(5)「文化・芸術」について	(問25～28)
	(6)「社会資本の整備」について	(問29～31)
	(7)「生物多様性の保全」について	(問32～34)

【調査対象】 県内在住の満18歳以上の者

【標本数】 2,500

【調査方法】 郵送によるアンケート調査(回答は郵送又はインターネットから選択)

【調査期間】 令和5年8月中旬～9月上旬

【回収結果】 回収数1,297件(回収率51.9%)

【調査結果】 (主な調査項目)

※1つの設問において2つ以上の回答を求めたものは、構成比の合計が100%を超える。

## ○「山形での生活」について

山形県が他県に誇れる良さは「自然環境の良さ」が76.8%

▶ 山形県が他県に誇れる良さについて、回答割合が高い項目

第1位「自然環境の良さ」(76.8%)  
第2位「優れた食文化」(48.9%)  
第3位「豊かな農林水産物」(47.4%)

▶ あなた自身もその良さを享受(実感)しているものについて、回答割合が高い項目

第1位「自然環境の良さ」(65.9%)  
第2位「優れた食文化」(40.4%)  
第3位「治安や風紀の良さ」(39.5%)

▶ 山形県に住み続けたいと思う(「住み続けたいと思う」、「やや住み続けたいと思う」)は76.5%

現在幸福を感じている(「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」)は71.6%

## 新型コロナ感染拡大前と比べて増した不安は「健康に関する不安」が32.5%

▶ 新型コロナ感染拡大前と比べて増した不安について、回答割合が高い項目

- 第1位「健康に関する不安」(32.5%)
- 第2位「生活の維持、収入に関する不安」(31.3%)
- 第3位「将来に関する全般的な不安」(26.5%)

▶ 新型コロナ感染拡大前と比べた重要視・関心事項について、回答割合が高い項目

- 第1位「心身の健康」(54.0%)
- 第2位「衛生面への配慮」(27.5%)
- 第3位「医療・福祉の充実」(13.6%)

## ○「SDGs（持続可能な開発目標）」について

SDGsを理解している（「内容をよく理解している」、「内容をある程度理解している」）は49.2%  
そのうち、SDGsを意識している（「常に意識している」、「ある程度意識している」、「たまに意識している」）は87.6%

## ○「結婚・子育て・家庭」について

独身でいる理由は「適当な相手にまだめぐり会わないから」が42.0%

▶ 独身でいる理由について、回答割合が高い項目

- 第1位「適当な相手にまだめぐり会わないから」(42.0%)
- 第2位「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(25.8%)
- 第3位「結婚する必要性をまだ感じないから」(20.9%)

▶ 理想とする子どもの数は「2人」が43.5%で最も割合が高く、次いで「3人」が40.4%

▶ 持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由について、回答割合が高い項目

- 第1位「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(35.1%)
- 第2位「高年齢で産むのはいやだから」(16.6%)
- 第3位「ほしいけれどもできないから」(11.3%)

▶ 子どもを育てやすい環境づくりに必要な取組みについて、回答割合が高い項目

- 第1位「保育料・教育費など経済的負担の軽減」(54.5%)
- 第2位「扶養手当、児童手当などの充実」(42.9%)
- 第3位「子育てに理解のある職場づくり」(27.2%)

## ○「性の多様性」について

### 性の多様性に関する言葉の認知度

- ▶ 「言葉を聞いたことがあるし、意味も知っている」の回答割合が高い項目

第1位「カミングアウト」(59.4%)  
第2位「性的マイノリティ」(48.7%)  
第3位「LGBTQ」(48.0%)

- ▶ 「言葉を聞いたことがないし、意味も知らない」の回答割合が高い項目

第1位「SOGI」(62.9%)  
第2位「アウティング」(57.8%)  
第3位「LGBTQ」(19.9%)

### 性の多様性が尊重される社会づくりに向けて、県が取り組むべきことは「相談窓口の設置」が69.4%

- ▶ 性の多様性が尊重される社会づくりに向けて、県が取り組むべきことで「取り組むべき」「ある程度取り組むべき」を合わせた回答割合が高い項目

第1位「相談窓口の設置」(69.4%)  
第2位「性の多様性を理解するための学校教育」(64.7%)  
第3位「行政職員や教職員への研修」(64.4%)

## ○「文化・芸術」について

### 山形県の文化資源の中で、誇りに思い県外にも紹介したいと思うものは「文学」が14.7%

- ▶ 山形県の文化資源の中で、誇りに思い県外にも紹介したいと思うものについて、回答割合が高い項目

第1位「文学」(14.7%)  
第2位「国宝、文化財」(13.7%)  
第3位「精神文化、舟運文化、地域の食文化等」(13.5%)

- ▶ 本県で文化芸術の鑑賞や活動などを行う上での課題について、回答割合が高い項目

第1位「鑑賞してみたいと思うイベント・催事が誘致・開催される機会が少ない」(37.4%)  
第2位「文化芸術鑑賞や活動を行うための時間的又は金銭的余裕があまりない」(22.8%)  
第3位「県内文化施設のサービス(イベント、無料開放、優待など)・機能(飲食、ショップ等)が充実していない」(16.3%)

## ○「社会資本の整備」について

生活環境をよりよくするために重要な施設は、「道路（高速道路、国道・県道等）」が44.0%

▶ 優先的に整備してほしい道路について、回答割合が高い項目

- 第1位「地域間を結ぶ道路（村山、最上、置賜、庄内の各地域を結ぶ道路）」（35.6%）
- 第2位「市街地（まちなか）と周辺地域を結ぶ道路」（31.8%）
- 第3位「市街地（まちなか）の道路」（23.3%）

▶ 優先的に推進してほしい道路の施策について、回答割合が高い項目

- 第1位「豪雨や地震などの自然災害に強い道路の整備（防災・減災、県土強靱化対策）」（51.5%）
- 第2位「通学路や交差点などの交通安全対策（通学路、交通事故対策）」（40.2%）
- 第3位「橋やトンネルなど道路施設の老朽化対策」（35.4%）

## ○「生物多様性の保全」について

「生物多様性の保全」という言葉を「今回初めて知った」は43.4%、「言葉は知っていたが、考え方は知らなかった」は30.8%、「考え方も含めて知っていた」は22.0%

地球上で多くの生態系が失われつつあることを「詳しいことはわからないが、聞いたことがある」は62.1%、「よく知っている」は26.4%、「知らない」は8.5%

▶ 生物多様性を保全し、『めぐみ』を得ていくための重点事項について、回答割合が高い項目

- 第1位「人間活動の中で維持されてきた里地、里山、河川などの身近な自然環境の保全や再生」（65.5%）
- 第2位「生態系に影響を与える外来種の駆除」（38.0%）
- 第3位「二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能を高める森林の整備」（24.2%）